授業改善等に関する報告書（2021 年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS（Lerning Management System）manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

［2021（後期）美学美術史学科］業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
西洋美術史入門ｂ	駒田　亜紀子	アンケートの回答をありがとうございます。今学期も一部の授業がリモート形式になってしまいましたが、皆さんの回答を見ると、対面型が良いとのお答えが多いようです。両者の長所と短所を比べることができたので、皆さんのお声は貴重です。いずれにせよ、皆さんが授業を通して美術史にさらに興味を持つようになること、そして何より皆さんがご自身の成長を実感できるようになることが、大切だと考えています。来年度の授業でもいろいろな分野に興味を持ってご自身の可能性をさらに拓いていってほしいと思います。
入門演習	串田　紀代美	5時限にもかかわらず、本授業に対し真剣に取り組んでくださったみなさんに、まずは深く感謝いたします。論文の書き方、引用や定型表現がわかったなど、みなさんがさまざまな気づきを得たことが、教員にとっては一番嬉しく、半年間がんばってよかったと思える点なのです。提出してくださったみなさんのレポートは、これまでで一番質の高いレポートでした。 みなさんのご意見の中で、「レポート・論文は大学生活を通して必要な技術なので、動画で何度も見返すことができるようにしてほしい」、「5時限は、家の遠い人に履修させないでほしい」、「5時限は空き時間が多く、無駄が多かった」などがありました。私もまったく同感です。授業形態同様、本授業の各クラスの決定は担当教員の私が行うことができず、現状で私が改善できることは何もないのですが、みなさんの声を必ず学科全体に伝え、今後は改善できるように働きかけます。 半年間、本当におつかれさまでした。あらためて、みなさんのご協力に感謝を申し上げます。
西洋美術史特講ｄ	駒田　亜紀子	今期も、コロナ禍の影響で、一部の授業をリモート型にせざるを得ませんでした。皆さんのアンケート回答を見ますと、対面型が良いと回答される方が多いようです。授業は、やはり、学生さんの反応を見ながら進めるものですので、リモートでそれが出来ないのは難しいことでした。それでも皆さんが、授業を通して、自分なりの成長を実感してくれることが大切です。来年度の授業はオンデマンド型指定になってしまいましたが、Responなどを通じて皆さんの質問やご要望に応えられるように尽力します。
卒論ゼミｂ	下山　肇	４年間の学びの締めくくりである卒論を仕上げるための卒論ゼミbでは、「どのような思考で取り組めばデザインを改善できるかという点において理解が深まった」「挑戦してみたかったことを形に出来た」といったテーマ自体への取り組みの成果から、「社会との結び付け方を実践できた」など、卒業後を意識した学びが得られた。 また、「自身の作品について論文を書く」という点は他のゼミでは体験することができないものであり、大変魅力的で面白い」という意見がある一方で、自身のテーマの作品化、発表を経た上での論文化に、「するべきことが多い」「急ピッチで進めなくてはならない時期がある」「時には難しいことが求められる」といった負の要素もみられる。 しかし最終的には「肯定的な意見とアドバイスをいただける時間は、非常に有意義な時間である」「最終的には満足度の高いゼミ」となり「ひとつの研究を1年通して完成させられた達成感」や「多くの成長を得た」といったそれぞれ満足する結果が生まれている。 今後も卒業後の社会や世界を意識した学びに結びつくよう指導を進めていく。
中国美術史特講ｄ	宮崎　法子	対面授業のよさを生かして、複製などを一緒に見る機会を作ったのは、学生さんにとってもよい経験だったと思われます。そのフィードバックの時間をもう少しとりたいところですが、基礎的な知識を伝えることと、学生の意見を聞くことのバランスをどのようにとるかが、今後の課題です。
卒論ゼミｂ	織田　涼子	アンケートの回答はありませんでした。
デザイン入門ｂ	下山　肇	今年度は大変ありがたいことに、数多くのポジティブな意見が得られた。 まずは、道具の使い方や、制作場の作り方や使い方など、本授業で学ぶべき基本的な技法が修得できた。条件の中で考えることや、効率、準備、合理性など、制作するにあたっての総合的な方法論についての理解が深まっている。 高校までに学んでこなかった「デザイン」という概念についても、ものを作るだけではないことや、意味や価値を見出すこと、完成したときの達成感など「楽しさ」を体感した上で、「本質や役割を考え直す機会になり、良かった」や「デザイン的な考え方を身につけたいと思うようになった」など、「デザイン的な思考」について知ることができた。 また、際立っていたのは、授業や課題制作を通してデザインの範囲を超えた意見が多く得られたことである。 「どんな工夫でどんな結果になるかを考える力」や、「考えを形にできる力」「達成する力」「臨機応変に行動する力」「一つのものから複数のものを生み出せる思考する力」など具体的に「得られた力」自覚できたことや、多様性を受け入れた社会を担う上で必要な「色々な観点」「考え方の幅」「普段は考えないことを考え、色々な考え方や表現力があるというのがわかった」なども尊い変化である。 そして、「行為の理由」「やってみることが大事」「目的のないものに向かう楽しさ」「たくさん発想を考えることができた」「提案をすることで、考えを深めること」「行為を言葉で説明する」「自分の言葉で説明し、価値を見出だすという発想」など、受講する前との思考の変化や成長が多くみられたことは、一教職課程の実技授業ににとどまらず、コロナ禍や侵略戦争など劇的に変化する世界において、自身の置かれた異なる場面ごとにより良く対応していくことを考え、行動していくことのヒントが得られたのではないだろうか。 次年度以降もこのような履修者自身が変化や成長を感じられる授業を心がけ進めていく。
絵画入門ｂ	織田　涼子	自身の成長を実感したという意見が多く、大変良かったと思います。ほどんどの項目で平均より高い評価となり、楽しんで制作できたようで安心しました。材料の扱い方及び時間配分を考えて制作するなど、対面授業でさまざまな技術を身につけ、表現力を向上させたことは素晴らしい成果です。身につけた力を活かして、さらに専門的な絵画制作に挑戦して欲しいと思います。

［2021（後期）美学美術史学科］業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
入門演習	串田　紀代美	本授業に対し、みなさんが真剣に取り組んでくださったことが、アンケートのコメントからよく理解できました。「論文の書き方で気を付けるべき点が理解できた」、「引用や脚注の方法がわかった」、「論点を絞って書くことができた」などの、さまざまな気づきを得たことが、教員にとっては一番嬉しく励みになります。提出してくださったみなさんのレポートは、これまでで一番質の高いレポートでした。 アンケートの中で、「オンデマンド型授業で、動画や資料を何度も見返したい」といったご意見が複数ありました。私もまったく同感です。オンデマンド型授業と対面授業をうまく組み合わせて、履修者にとって有益な授業運営ができるよう、検討したいと思います。 この授業を通して、文章を書くことに対して苦手意識が少しでもなくなり、心理的負担が軽減されれば嬉しいです。半年間、ありがとうございました。
日本近代美術史特講ｄ	児島　　薫	今期の授業は、いわゆる「ポスト・コロニアリズム」に関する視野をみなさんに持ってもらいたいと思って構成しました。まちがえて植民地主義をなぞっていただいては困るのですが、試験の結果をみるとよく考えてくださったようで安心しました。
民俗芸能特講ｄ	串田　紀代美	授業アンケートに、たくさんのコメントを記入してくださり、まずは履修者のみなさんにお礼を申し上げます。本授業を通して、「複数の視点を持つことができた」、「課題を考える力がついて」、「ノートの作成方法や自分自身のことばで要点をメモするコツがわかった」など、多くの気づきをみなさんが得てくださったことは、教員にとって一番嬉しく大変励みになります。 一方で、内容を少々詰め込み過ぎて「授業の進みが速い」、「スライドをゆっくりみたかった」といったコメントも多数寄せられました。この点は、今後あらためて検討し、学生のみなさんにとって適切な進度を考えていきます。 半年間、ありがとうございました。みなさんが真摯に学習に取り組んでくださり、心からお礼を申し上げます。私自身、この授業でみなさんと会うのが毎回楽しみでした。目標を高く持ち、興味を持ったことについて貪欲に学び続けてください。
絵画実習ｂ	織田　涼子	作業手順がよくわかった等の意見があり、授業を通して自身の成長を実感できたことは大変良かったと思います。総合的な授業満足度も平均値より高く、実技の表現方法について理解が広がり「専門的にさらに学びたい」と思える経験となったようで安心しました。実演を含む課題説明は理解されたものと考えますが、板書や配布資料は十分ではないとの指摘があったため、今後はmanabaの使用を増やし改善したいと思います。
中国美術史入門ｂ	宮崎　法子	中国美術を始めて学ぶ機会だったと思いますが、まじめに取り組み未知のものを知る機会にはなったことが伝わり、少し安心しました。説明はそれなりにわかりやすかったようですが、理解出来たかどうかは心許なかったようです。今後そこをどう埋めていくか、内容を減らすなどしていくしかないと思いますが、私の課題です。
西洋近代美術史演習ｂ	六人部　昭典	最終授業が急遽、対面からオンラインに変更になり、授業アンケートも、manabaで呼びかけることになった。回答率は低いが（回答率、35%）、概ね、順調だったと思われる。受講人数が40人と多かったが、各自が授業に主体的に取り組んだ結果だろう。また各々の疑問をmanaba（「個別指導」）で対応したことも有効だった。個々のコメントを読むと、プレゼンの力が付いただけではなく、グループでの発表準備も収穫だった様子。来年の卒論に結びつけてほしい。
芸能文化史	串田　紀代美	日本の伝統芸能が危機に直面しているということを、授業では折に触れて言及しましたが、現代人の多くが伝統芸能に興味を持つことの難しさを本授業を通して実感しました。そのため授業設計が難しく、最初から最後まで授業内容に関して悩みぬいたのが、実はこの「芸能文化史」の授業です。残念ながらアンケートの回収率が低く、履修者すべての方々の状況が把握できませんが、それでも学期末の事例発表の見事な動画や、大学院レベルの質の高い事例報告書を拝見し、みなさんの授業に対する真摯な態度にあらためて関心しました。事例発表は、対面で行いたかった方が多かったと思います。その点も深く後悔が残ります。前期の「身体文化論」とともに「芸能文化史」は今年度を以って終了しますが、今後みなさんが伝統芸能をみてくださる機会が少しでも増えることを期待しています。半年間、ありがとうございました。
卒論ゼミｂ	武笠　　朗	回答が一人のみでなんとも言えませんが、とにかくゼミ生のみなさん、よく頑張って卒論提出に至りました。コロナ禍で十分な研究ができない中、なんとかそれなりの形にまとめ上げたこと、高く評価したいと思います。こちらの指導が至らなかったこと反省です。もっと一対一の指導ができれば良かったのですが、かないませんでした。次年度への課題です。
日本近代美術史入門ｂ	児島　　薫	日本の戦争中から戦後にかけての美術史は、初めて聞く内容ばかりであったでしょうけれども、大変よく勉強してくださったと思います。最後に体調を崩して授業内容のアップに失敗したりしてすみません。また状況が落ち着いたら、どんどん展覧会を見に行ってください。
絵画実習ｃ	織田　涼子	総合的な授業満足度は平均値より高く、日本画材料の取り扱いに関する理解が深まったようで良かったと思います。進行のスピード、双方向授業の工夫は平均値より低く、予習復習時間が少ないことから、職人技に近い手順を理解するには制作時間が短いかもしれません。配布資料は「どちらかと言えばわかりやすい」との評価を得たため、日本画の制作過程に関する復習教材を提示して改善したいと考えます。

［2021（後期）美学美術史学科］業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
卒論ゼミｂ	宮崎　法子	回答者数が２名と少なかったので、全体の評価とはいいにくいとおもいます。卒論と就活の両立など、一人一人の状況の違いも大きく、あまり授業に出られない人もいました。でもそれぞれが、卒論を仕上げられたことは、何よりでした。
西洋近代美術史特講ｄ	六人部　昭典	アンケートを見ると（回答率、91%）、授業の内容は概ね伝わったと思う。各自のコメントでは、作品を分析する力、言葉にする力が付いたことを実感している学生が少なくない。前もって作品画像と資料、質問を提示することで、動機をもって授業にのぞむことができたのだろう。授業後に公開したパワーポイントで、復習にも励んだ様子。身に付けた基礎力を「演習」や卒論に結びつけてほしい。
デザイン入門ｂ	下山　肇	今年度は大変ありがたいことに、数多くのポジティブな意見が得られた。 まずは、道具の使い方や、制作場の作り方や使い方など、本授業で学ぶべき基本的な技法が修得できた。条件の中で考えることや、効率、準備、合理性など、制作するにあたっての総合的な方法論についての理解が深まっている。 高校までに学んでこなかった「デザイン」という概念についても、ものを作るだけではないことや、意味や価値を見出すこと、完成したときの達成感など「楽しさ」を体感した上で、「本質や役割を考え直す機会になり、良かった」や「デザイン的な考え方を身につけたいと思うようになった」など、「デザイン的な思考」について知ることができた。 また、際立っていたのは、授業や課題制作を通してデザインの範囲を超えた意見が多く得られたことである。 「どんな工夫でどんな結果になるかを考える力」や、「考えを形にできる力」「達成する力」「臨機応変に行動する力」「一つのものから複数のものを生み出せる思考する力」など具体的に「得られた力」自覚できたことや、多様性を受け入れた社会を担う上で必要な「色々な観点」「考え方の幅」「普段は考えないことを考え、色々な考え方や表現力があるというのがわかった」なども尊い変化である。 そして、「行為の理由」「やってみることが大事」「目的のないものに向かう楽しさ」「たくさん発想を考えることができた」「提案をすることで、考えを深めること」「行為を言葉で説明する」「自分の言葉で説明し、価値を見出だすという発想」など、受講する前との思考の変化や成長が多くみられたことは、一教職課程の実技授業ににとどまらず、コロナ禍や侵略戦争など劇的に変化する世界において、自身の置かれた異なる場面ごとにより良く対応していくことを考え、行動していくことのヒントが得られたのではないだろうか。 次年度以降もこのような履修者自身が変化や成長を感じられる授業を心がけ進めていく。
デザイン実習ｂ	下山　肇	課題を進めていく過程で作品自体を制作する力だけでなく、「自分の考えを文章化しまとめる能力」や、「疑問点を見つける力」や「改善策を見つける力」が身についた。また、参考になる空間デザイン系の展覧会があれば、校外学習を行っているが、「課外授業を踏まえた上で自身の制作に取り組むことができるところが良かった」「座学によって学んだことを、実物を見ることでより深く定着させることができた」など、場面を変えることによる幅広い学びが得られた。 一方で、実技系の授業の常として、「制作する時間が少し短い」と感じさせてしまったことは今後改善すべき点である。
卒論ゼミｂ	六人部　昭典	最終授業が急遽、対面からオンラインに変更になり、授業アンケートも、manabaで呼びかけることになった。回答率は低いが（20%）、概ね、順調だったと思われる。ただ、ゼミ人数が24人と多く、各々の指導に充てる時間が少なかった。この点については、対面時の質問を整理、またmanabaの活用（「個別指導」）することで補えたようだ。学生たちの主体的な取り組みゆえだと思う。
西洋近代美術史入門ｂ	六人部　昭典	アンケートを見ると（回答89%）、授業の内容は概ね伝わったと思う。特に作品と時代の関わりを考えること、作品を観察力がついたことを実感している学生が多い。前もって作品画像と資料、質問を提示することで、動機をもって授業にのぞむことができたのだろう。授業後に公開したパワーポイントで、復習にも励んだ様子。１年で身に付けた基礎力を２年次以降の授業に結びつけてほしい。
仏教美術史演習ｂ	武笠　　朗	みなさんコロナ禍の中よく勉強しました。一応対面で全部できたのは喜ばしかったです。ただやはり授業の双方向性は課題です。発表の時に討論ができれば良いのですが、時間がなくてなかなかできないので、皆にコメントを書いてもらいましたが、それに対する返しがまた、時間がなくて十分にできないという状況でした。よりよい方法を模索します。
絵画入門ｂ	織田　涼子	自身の成長を実感したという意見が多く、大変良かったと思います。ほどんどの項目で平均より高い評価となり、配布資料も役立ったようで安心しました。対面授業でさまざまな制作に挑戦し、時間配分や制作課題を自身で考え、デッサンや彩色方法について理解を深めたことは素晴らしい成果です。身につけた力を活かして、さらに専門的な絵画制作に挑戦して欲しいと思います。
仏教美術史入門ｂ	武笠　　朗	回答率が半分でした。もっと回答を促すべきでした。やはり今回も問題は授業の双方向性です。これは大人数授業でなかなかむずかしいし、皆始めて学ぶ内容なので、皆で討論することもままならない状況です。ただ少なくとも、質問などを受け付けやすくするなどの対応は可能でしょうから、検討してみたいと思います。それから小テストへの返しをできるだけ早めにする、ということでしょうか。

［2021（後期）美学美術史学科］業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
デザイン実習ｃ	下山　肇	「基礎となる考えについて理解を深めることができた」など、 本授業で学ぶべき基本的な技法が修得できた。 来年度以降もより深い理解を目指して引き続き取り組んでいく。
中国美術史演習ｂ	宮崎　法子	回答者数が４名と少なかったので、全体の評価は分かりませんが、対面授業のよさを生かせる授業を心がけました。後期は特に学生さんの発表が中心でしたが、それを通じて成長をもっと実感してもらえるとよかったと感じます。そのためにはハードルを上げる必要があります。モチベーションの点でも、学生さんごとに違いがあるため、今後も様子を見ながら、学生さんの意向も聞きながら進めるしかないと思います。
卒論ゼミｂ	駒田　亜紀子	今年度も、コロナの影響で、図書館の利用が制限されるなど卒論執筆に困難を伴う中で、皆さんは本当によく頑張って、例年以上に立派な卒論を完成させたと思います。約10ヶ月をかけて卒論を書き上げるという初めての体験は、今後の皆さんのさらなる成長に、きっと自信をもたらしてくれるものと思います。この達成感を忘れないでください。
日本近代美術史演習ｂ	児島　　薫	演習授業では本来は美術館見学を取り入れるのですが、今年度は感染拡大などの状況を勘案して、全員での見学をおこなわず、自由見学として個別におこなってもらいました。そのことがシラバスと異なる結果でしたが、無理をしても行うべきであったのか、迷うところでした。また人数が多かったため、発表が授業のかなりの回数を占めましたが、活発で多様な発表はお互いの刺激になったと思います。
卒論ゼミｂ	児島　　薫	結局今年度もzoomを使った個人指導が多くなってしまいました。演習のときもオンラインがほとんどでしたし、ゼミの人数も多かったために集まってどこかに行くということもしにくい状況でした。ゼミの一体感をつくれなかったのは反省いたします。でもみなさんがとてもすばらしい卒論を書いてくださったので、こちらも大変手応えがありました。卒論での研究成果はみなさんの財産です。
民俗芸能入門b	串田　紀代美	半年間、授業に真剣に向き合ってくださった方々にまずはお礼を申し上げます。2020年度はすべてオンデマンド型授業だったため、2021年度も内容を変更せず、1回の授業内容を同等にしようとした結果、各回の授業進度が少々早くなり、みなさんにはご迷惑をおかけしました。オンデマンド型授業での1回分の動画は、通常の対面授業1回分と比較すると、時間は50分程度と大変少ないのですが、対面授業よりもたくさんのことを動画に詰め込める効率の良い授業形態だということが、今年よくわかりました。スライドをもっとゆっくり見たかった方々、本当に申し訳ありませんでした。 　民俗芸能は、みなさんにとって馴染みが薄く、社会にとってそれほど重要性がないかもしれませんが、美術史を深く学んでいく際には「文化財」という点でも関連が深い隣接分野です。美術作品の成立背景を考える時に、音楽や舞踊を含めた民俗的な身体文化のことを、少しだけ思い出していただければ幸いです。 　半年間、ありがとうございました。みなさんに出会えたことに、心から感謝を申し上げます。
西洋美術史演習ｂ	駒田　亜紀子	演習は、課題とそれに基づく授業での質疑応答を重視する科目ですが、今年度も、一部の授業が、メディア対応になりました。図書館の利用も制限されがちで、課題に苦労された方もおられると思います。そうした中でも、後期の期末課題発表と課題レポートは、例年以上に頑張って取り組んでいたと思います。皆さんのこの１年間の成長は、来年度以降の皆さんの成長にも続いていくことを期待しています。